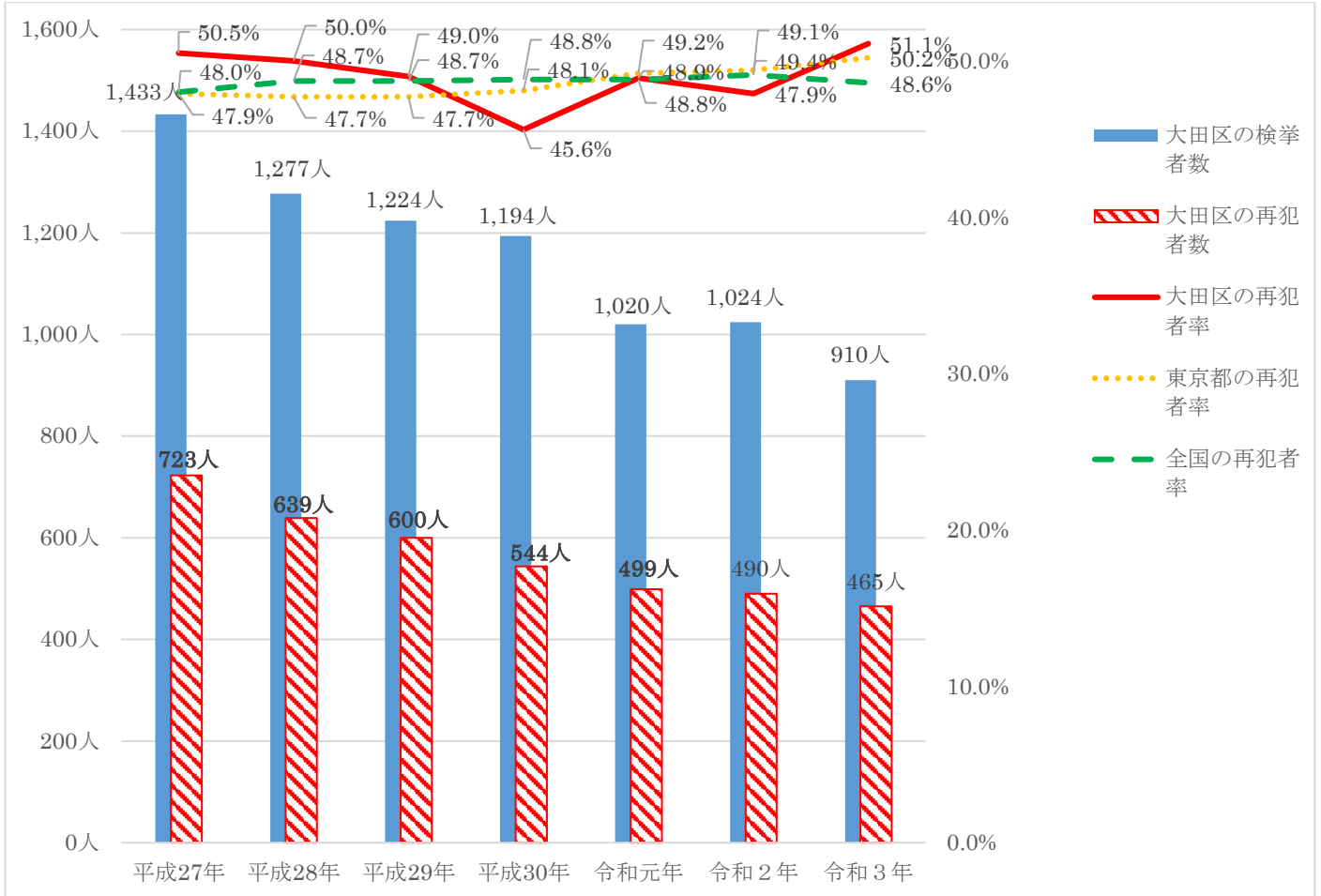


大田区の再犯者に係る状況

再犯者に係る状況

*大田区の統計データは、警視庁提供の統計資料を基に、大森警察署、田園調布警察署、蒲田警察署、池上警察署の4署を合計したものです。

(1) 刑法犯検挙者中の再犯者数(大田区)及び再犯者率(大田区・東京都・全国)の推移

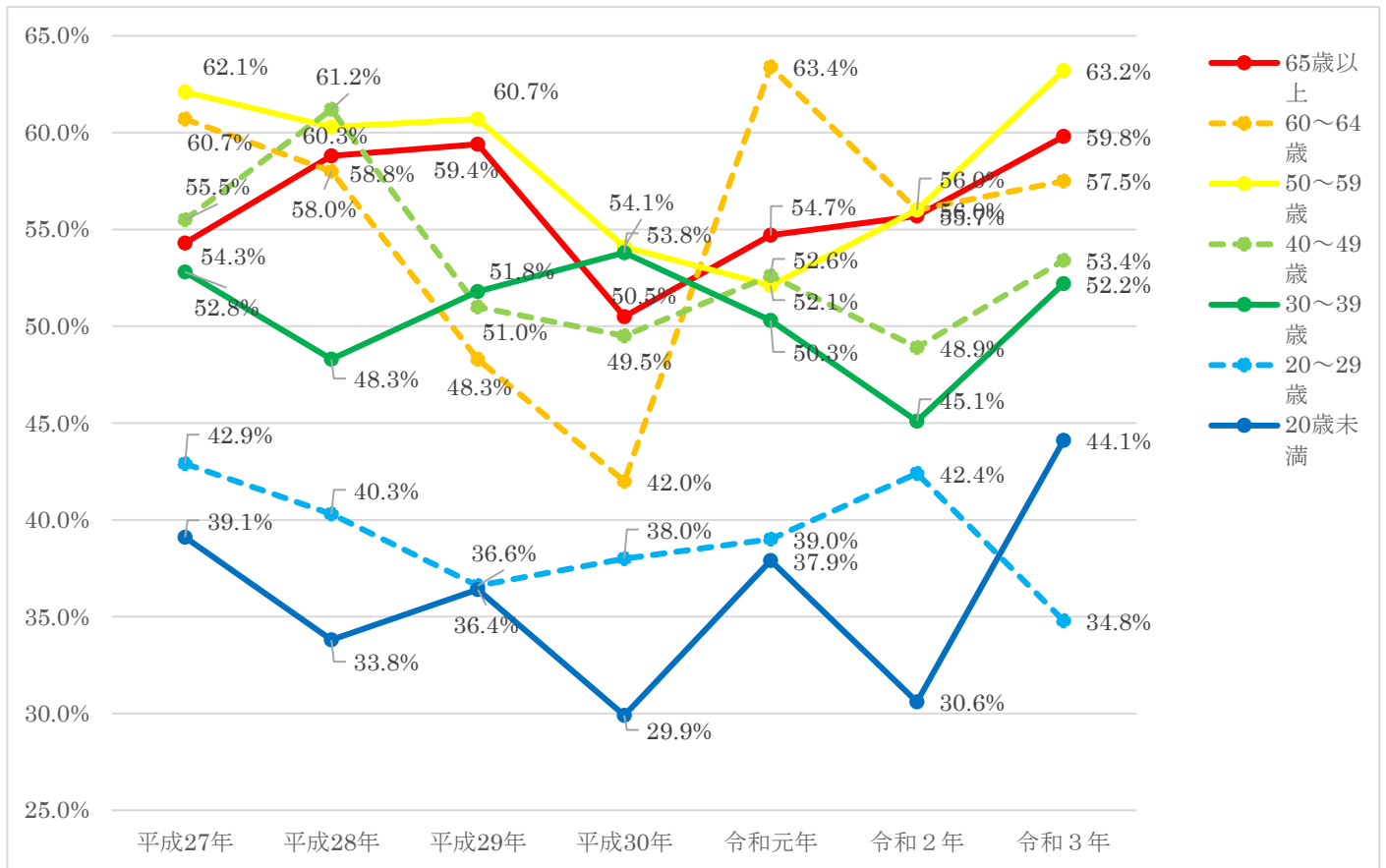


令和3年の区内の刑法犯検挙者数は910人、再犯者数は465人であり、ともに減少となっておりますが、再犯者率は51.1%となっております。

東京都内の再犯者率は50.2%であり、同様の傾向が見られます。

(全国の再犯者率は48.6%)

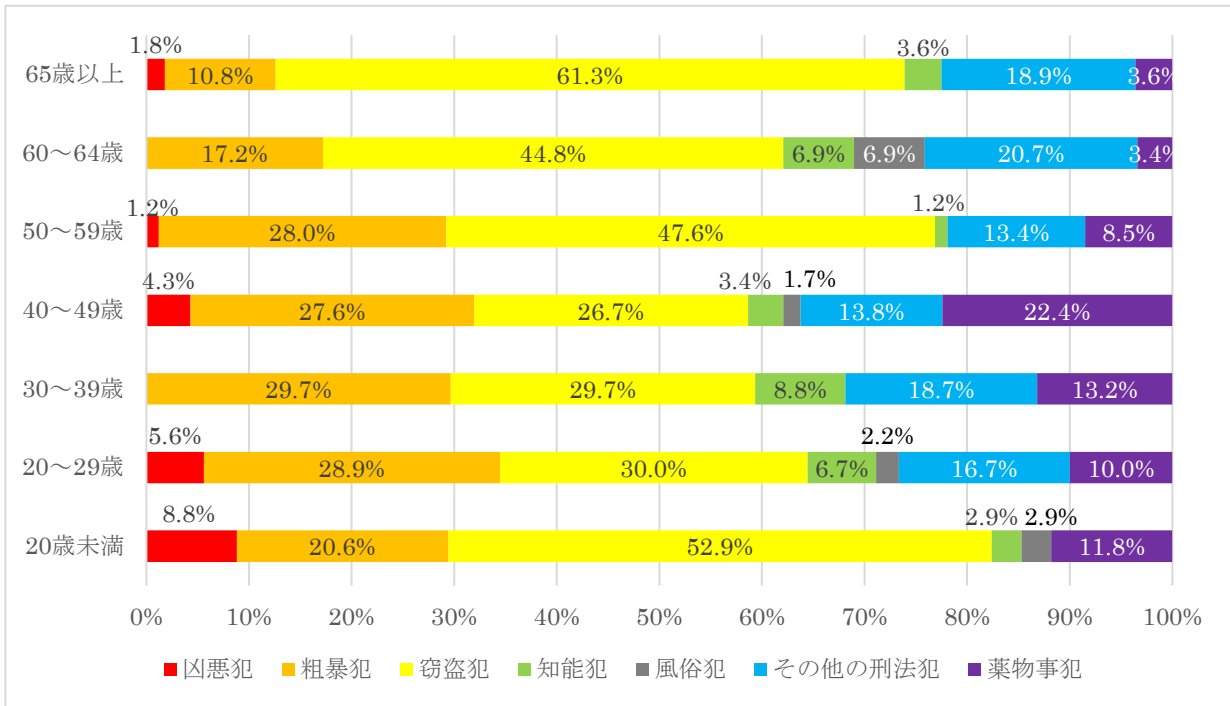
(2) 大田区の年代別再犯者率の推移



再犯者率の推移を年代別に見ると、令和2年と比較して、20～29歳の世代を除き、再犯者率が上がっています。特に、20歳未満の再犯者率は30.6%→44.1%と上昇幅が一番大きくなっています。上昇幅はやや緩やかではありますが、50歳以上の世代で高い傾向にあります。

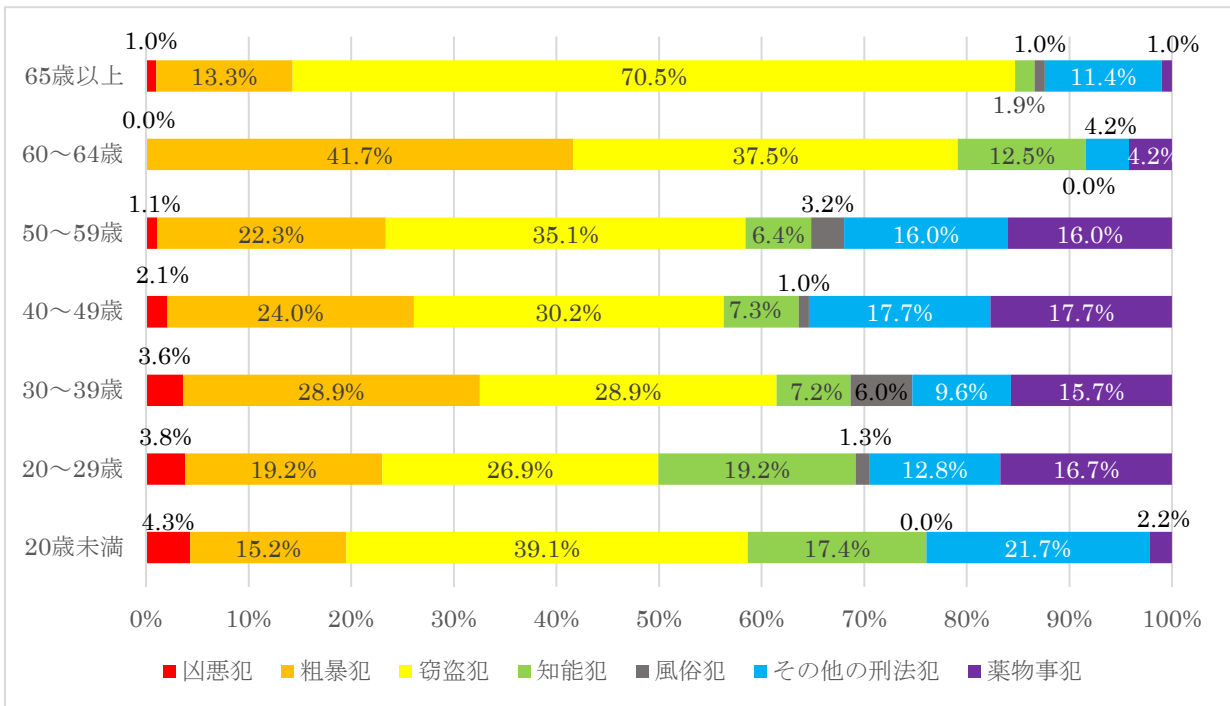
(3) 大田区の年代別・罪名別再犯者の割合（令和2年と令和3年の比較）

- 令和2年 -



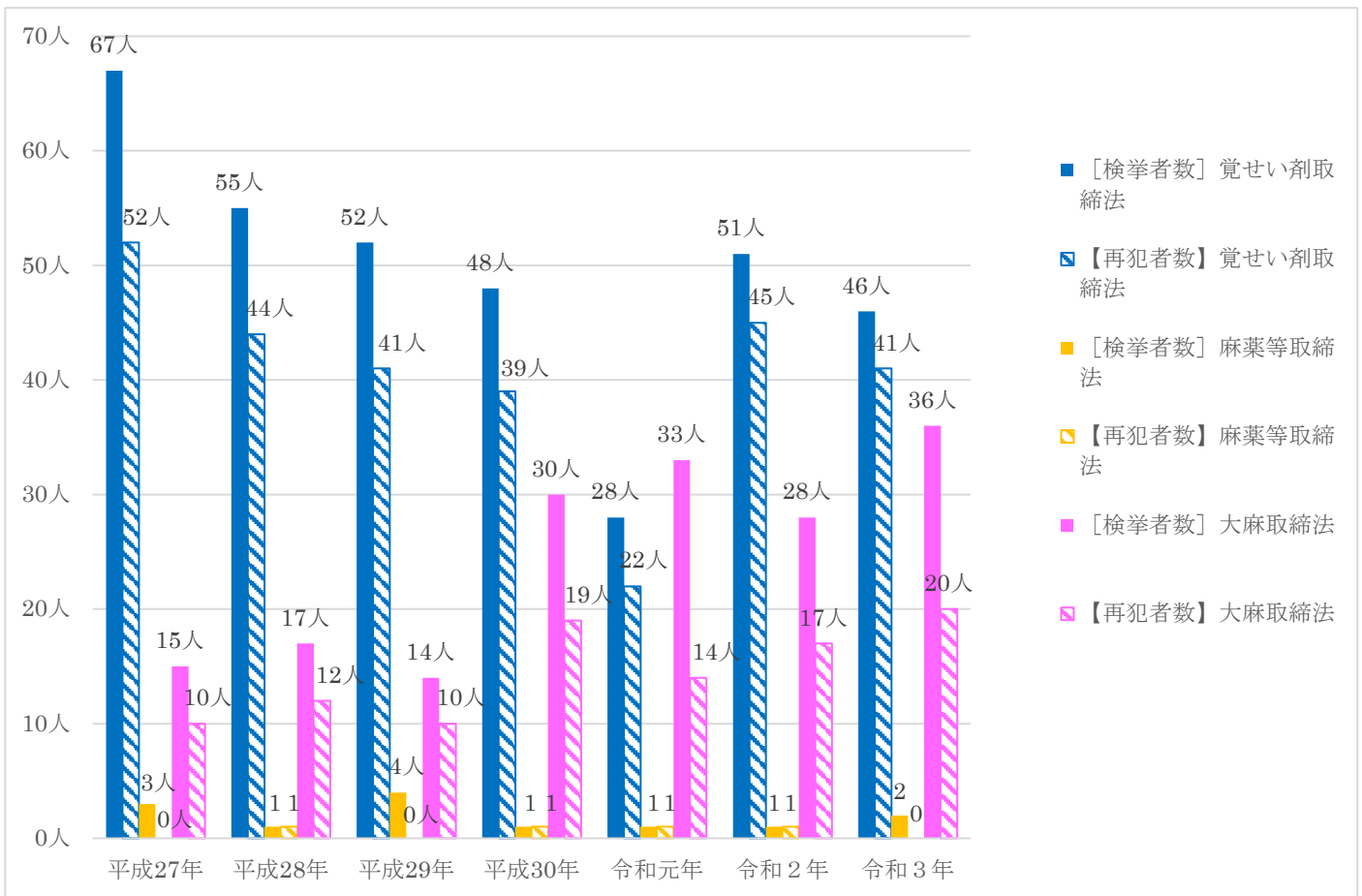
★刑法犯と薬物事犯を合わせた再犯者数を年代別に罪名を見ると、65歳以上で窃盗犯の再犯者割合が大きくなっており、割合は6割を超える状況となっています。20歳未満でも窃盗犯の再犯者割合が大きくなっています。また、薬物事犯は40～49歳の年代が大きな割合となっています。

- 令和3年 -



★令和2年と比較すると、窃盗犯については、65歳以上で7割を超える状況となっています。60～64歳の世代で、粗暴犯の割合が一番大きい数値となっています。また、59歳未満の各世代において、知能犯の割合が増えており、特に20～29歳の世代で割合が多くなっています。

(4) 大田区の薬物事犯 罪名別 検挙者数及び再犯者数の推移



大田区の薬物事犯の検挙者数は令和元年まで漸減していましたが、令和2年に増加し、令和3年も増加となりました。また、再犯者率は令和2年に比べ、微減したものの、7割を超え、高い状況となっています。特に覚せい剤取締法違反の再犯者率は89.1%となっており、90%に迫ろうとしております。